

「釧路湿原自然再生協議会」

第35回 再生普及小委員会

令和2年10月13日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会
第35回 再生普及小委員会

日時：令和2年10月13日（火）14:00～15:30
場所：釧路地方合同庁舎5階 共用第1会議室
（釧路市幸町10丁目3番地）

----- 議 事 次 第 -----

- 1, 開会
- 2, 議事
 - 1)再生普及小委員会の活動報告
 - 2)第4期再生普及行動計画に基づく取組について
 - 3)その他

----- 配 布 資 料 -----

- ・ 議事次第
- ・ 再生普及小委員会 委員名簿
- ・ 第35回再生普及小委員会 出席者名簿
- ・ 第35回再生普及小委員会 資料
 - [資料1] 再生普及行動計画オフィスの取組について
 - [資料1-1] 「ワンダグリンダ・プロジェクト2020」応募状況
 - [資料1-2] 小委員会事務局が実施する市民参加の取組について
 - [資料2] 第4期再生普及行動計画に基づく取組について（案）
 - [参考資料1] 第4期再生普及行動計画
- ・ 2019ワンダグリンダ報告書
- ・ 第34回再生普及小委員会ニュースレター
- ・ 第25回フィールドワークショップ案内
- ・ 意見・要望アンケート用紙

釧路湿原自然再生協議会
再生普及小委員会 委員名簿

計:69名

■個人(29名)

(敬称略、五十音順)

No.	氏名	所属
1	石岡透	
2	伊藤毅	上智大学
3	甲斐田直子	筑波大学システム情報系(社会工学域)
4	金子正美	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 教授
5	神戸忠勝	
6	君塚孝一	(有)自然文化創舎
7	木村勲	
8	小松繁樹	
9	貞國利夫	釧路市立博物館
10	佐野修久	大阪市立大学大学院 都市経営研究科
11	清水信彦	
12	新庄久志	釧路国際ウェットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター)
13	杉澤拓男	
14	高嶋八千代	
15	高橋忠一	
16	竹中康進	
17	橋利器	トラウトフォーラム会員
18	橋治國	特定非営利活動法人 水圏環境科学研究所 理事長
19	鶴間秀典	
20	照井滋晴	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG 代表
21	中村太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
22	平岡俊一	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 准教授
23	蛭田眞一	
24	松本文雄	
25	矢吹哲夫	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 教授
26	吉中厚裕	酪農学園大学
27	吉村暢彦	北海道大学環境科学院
28	渡邊剛弘	上智大学
29	渡辺義勇	

■団体(25名)

(敬称略、五十音順)

No.	団体/機関名	代表者名
1	阿寒国際ソルセンター(グルス)	主任解説員 河瀬 幸
2	釧路観光連盟	会長 中山 勝範
3	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也
4	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
5	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 芳賀 孝朋
6	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
7	釧路シャケの会	会長 小杉 和寛
8	釧路武佐の森の会	会長 大西 英一
9	こどもエコクラブくしろ	近藤 一燈美
10	公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部	支部長 小柳 慶吾

No.	団体/機関名	代表者名
11	公益財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー 原田 修
12	公益財団法人北海道環境財団	理事長 小林 三樹
13	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 矢部 浩規
14	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
15	道東のイトウを守る会	会長 神田 房行
16	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
17	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
18	特定非営利活動法人 くしろ・わっと	理事長 小林 友幸
19	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
20	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	事務局長・理事 佐藤 吉人
21	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
22	北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク	代表 高橋 克巳
23	北海道標茶高等学校	校長 津嶋 拓慈
24	北海道プロフェッショナルフィッシングガイド協会	会長 テディ齋藤
25	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

■オブザーバー(5団体)

(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	釧路商工会議所	会頭 栗林 定正
2	釧路町商工会	会長 土井 茂人
3	標茶町商工会	会長 田中 進
4	弟子屈町商工会	会長 竹森 英彦
5	鶴居村商工会	会長 大津 泰則

■関係行政機関(10機関)

(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 石川 伸
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 田邊 仁
3	林野庁 北海道森林管理局	局長 原田 隆行
4	北海道 釧路総合振興局	局長 山口 修司
5	北海道教育庁 釧路教育局	局長 川端 雄一
6	釧路市	市長 蝦名 大也
7	釧路町	町長 小松 茂
8	標茶町	町長 佐藤 吉彦
9	弟子屈町	町長 徳永 哲雄
10	鶴居村	村長 大石 正行

釧路湿原自然再生協議会
第35回再生普及小委員会 出席者名簿

■個人(6名) (敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	神戸 忠勝	
2	清水 信彦	
3	新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター技術委員長 (環境ファシリテーター)
4	貞國 利夫	釧路市立博物館
5	高橋 忠一	
6	吉中 厚裕	酪農学園大学

■団体(11団体) (敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	出席者名
1	釧路観光連盟	専務理事 長沼 大平
2	釧路国際ウェットランドセンター	事務局長 菊地 義勝
3	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 芳賀 孝朋
4	釧路湿原国立公園連絡協議会	事務局次長 元岡 直子
5	釧路シャケの会	事務局長 渡辺 雅貴
6	公益財団法人 北海道環境財団	環境教育課長 山本 泰志
7	こどもエコクラブくしろ	近藤 一燈美
8	道東のイトウを守る会	事務局長 田中 正
9	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	研究員 小林 恒平
10	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	井上 雅子
11	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	事務局長 佐藤 吉人

■オブザーバー(1団体) (敬称略)

No	団体/機関名	出席者名
1	釧路商工会議所	振興課長 斎藤 大

■関係行政機関(5機関) (敬称略)

No	団体/機関名	出席者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	治水課長 池田 共実
2	環境省 釧路自然環境事務所	国立公園企画官 松尾 浩司
3	林野庁 北海道森林管理局	釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長 川淵 義昭
4	北海道 釧路総合振興局	環境生活課 専門主任 曾我 浩二
5	釧路市	環境保全課 課長補佐 元岡 直子

「釧路湿原自然再生協議会」

第35回 再生普及小委員会

資 料

令和2年10月13日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

目 次

【再生普及小委員会の活動報告】

資料 1	再生普及行動計画オフィスの取組について	・・・・・・・・	1
資料 1 - 1	「ワンダグリーンダ・プロジェクト 2020」応募状況	・・・・	9
資料 1 - 2	小委員会事務局が実施する市民参加の取組について	・・・・	13

【第 4 期再生普及行動計画に基づく取組について】

資料 2	第 4 期再生普及行動計画に基づく取組について（案）	・・	19
------	----------------------------	----	----

再生普及行動計画オフィスの取組について

事務局として以下の取組を実施した。

1. ワーキンググループ等の開催

■第 10 回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ（以下 4 参照）

[日時] 令和 2 年 1 月 7 日（火） 15 : 00～16 : 30

[場所] 釧路地方合同庁舎 4 階第三会議室

[参加者] 10 名

[議題] 1.ワーキンググループの取組報告
2.第 4 期再生普及行動計画（案）について

■第 11 回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ（以下 4 参照）

[日時] 令和 2 年 9 月 11 日（金） 15 : 30～17 : 00

[場所] 釧路地方合同庁舎 7 階第五会議室

[参加者] 10 名（開催場所への出席 7 名、オンラインでの参加 3 名）

[議題] 1.第 10 回ワーキンググループ会合以降の取組
2.今後の取組の方向性について

■第 11 回 再生普及推進のための連携チーム会合

[日時] 令和 2 年 7 月 28 日（火） 14 : 30～15 : 30

[場所] 釧路地方合同庁舎 7 階第五会議室

[参加者] 11 名

[議題] 1.小委員会事務局が実施する市民参加の取組について
2.湿原の保全や再生に係る情報の発信について
3.その他（各小委員会からの提案・連絡事項等）

2. ワンダグリンド・プロジェクトの推進

ワンダグリンド・プロジェクト参加者の取組広報、連携した啓発等を行っていく。

- ・ワンダグリンド・プロジェクト 2019 参加 66 団体・個人（活動報告書参照）
- ・ワンダグリンド・プロジェクト 2020 参加（10 月 13 日現在）64 団体・個人（資料 1-1 参照）

■広報・啓発等の取組

教育機関、公共機関・施設等でワンダグリンド活動報告書を配布し、ワンダグリンド・プロジェクトの周知を図ったほか、イベント等での活動紹介、メールニュースやホームページ、施設等での行事広報を行った。（以下 3 参照）

■自然再生協議会等が実施する現地見学会等の取組のとりまとめ

各小委員会事務局やワンダグリンド・プロジェクト参加者が実施する自然再生事業地の現地見学

会や自然再生への参加機会のとりまとめを行った（資料1-2参照）。

今後、各種媒体を活用して行事のPRを行うとともに、必要に応じて企画支援を行い、市民参加の拡大を図る。また、共通様式アンケートの実施、回答の分析を行い、参加機会の拡充を図る。

■フィールドワークショップの実施

○第24回フィールドワークショップ～川を渡ってハンノキ林からミズゴケ湿原への旅～

[日時] 令和2年2月6日（木）8:30～15:00

[場所] 鶴居村温根内

[案内人] 新庄久志氏（釧路国際ウェットランドセンター主任技術員）

[参加者] 14名



今年度についても、2回の実施を予定しており、1回目は10月31日に実施予定。

3. 情報発信・普及活動

■イベント、パネル展の開催

○シルバーシティときわ台ヒルズ「釧路湿原自然再生パネル展」

[期間] 令和2年2月1日（土）～2月27日（木）

[内容] 釧路湿原自然再生事業紹介パネル展示

ワンダグリнда活動紹介（辻野正氏：湿原クラフト作品展示）

○シルバーシティときわ台ヒルズ「釧路湿原について学ぶ自然文化講座」

[日時] 令和2年2月2日（日）14:00～15:00

[講師] 菊地義勝氏（釧路国際ウェットランドセンター事務局長）

[内容] 令和の時代と身のまわりの自然



○小学5年生がみつめた猛禽が舞う空~僕にできること。伝えたいこと。~

[期間] 令和2年7月13日(水)から(展示中)

[場所] 温根内ビジターセンター

[内容] ワンダグリンド登録者の宮部碧氏が作成した猛禽新聞9点の展示



○釧路湿原自然再生事業パネル展

[期間] 令和2年7月16日(木)から(展示中)

[場所] フィッシャーマンズワーフMOO

[内容] 自然再生事業紹介パネル9点



○釧路湿原ラムサール条約登録40周年記念 市民講座

地域の宝は地球の宝! 釧路湿原の「すごい!」を体験しよう~

●第1回 変わる「すごい!」の評価軸

[日時] 令和2年9月12日(土)

10:30~12:00

[場所] 釧路地方合同庁舎 5階第1会議室

●第2回 湿原フィールド訪問

[日時] 令和2年9月27日(日)

9:00~11:30

[場所] 温根内ビジターセンター周辺

●第3回 これからの湿原と私たち

[日時] 令和2年10月3日(土)

10:30~12:00

[場所] 釧路地方合同庁舎 5階第1会議室



※上記共通して

[講師・案内人] 新庄 久志 氏

[参加者] 11名

[主催] 環境省釧路自然環境事務所

[協力] 釧路国際ウェットランドセンター



■WEB サイトへの情報掲載とメールニュースの配信

○ウェブサイト

- ・「みんなで進める！釧路湿原の自然再生」(kushiro-wanda.com/)
ワンダグリンドの活動状況や釧路湿原で行われる行事情報、推進連携チームおよび再生普及小委員会、学校支援ワーキンググループ会合資料等をホームページへ掲載
- ・「きづく わかる まもる 釧路湿原」(kushiro-ee.jp)
学校教育における湿原の活用に関する情報を掲載 (以下 4 参照)

○メールニュース (ワンダグリンド☆ニュース)

月 2 回程度、ワンダグリンドの活動状況や釧路湿原で行われる行事情報を配信

月 1 回、メールニュースの内容をチラシとして取りまとめてメールニュースへの添付、印刷物の郵送等を行い、受信者に施設等へ掲示いただくことで、より多くの市民が情報に触れるように努めた。

4. 湿原学習のための学校支援ワーキンググループの取組課題の推進

■取組課題 1 「湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進」

フィールド情報マップ (kushiro-ee.jp/fieldmap/) に温根内木道および細岡展望台周辺フィールドの情報、実践事例等を追加した。また、これまでに掲載したフィールドを活用した実践を学校と協働で企画し活用を図った。

■取組課題 2 「自然再生の学校教育への活用促進」

○達古武地区自然再生事業地を活用した実践支援

- ・標茶町立標茶小学校 フィールド学習の事前案内

実施日時 : 令和 2 年 7 月 3 日 (金)

15 : 30 ~ 17 : 00

実施場所 : 達古武地区森林再生事業地 (苗畑)、
夢ヶ丘遊歩道、達古武湖 (湖畔)

対 象 : 5 年生担任教諭

主な内容 : フィールドおよびプログラムの紹介



- ・標茶町立標茶小学校 フィールド学習での案内

実施日時 : 令和 2 年 7 月 9 日 (金)

9 : 40 ~ 11 : 50

実施場所 : 達古武地区森林再生事業地 (苗畑)、
夢ヶ丘遊歩道、達古武湖 (湖畔)

対 象 : 5 年生 52 名

主な内容 : 森づくりの取組紹介、
生き物調査等プログラムの実施



・ 釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検に向けた事前講義

実施日時 : 令和2年7月20日(月) 13:20~14:10

実施場所 : 釧路湖陵高等学校

対 象 : 理数科1年生40名

主な内容 : 釧路湿原巡検について

■取組課題3「学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及」

○教員研修講座の実施

[日時] 令和2年1月7日(火) 9:00~11:30

[場所] 釧路湿原右岸堤防周辺フィールド

[講師] 新庄 久志氏

[参加者] 4名

[内容] 冬の湿原に分け入り土砂や栄養の違いから生息する植物が変化していく様子を体感した。



○釧路湿原流域環境を題材とした学びのプロセスの支援、実践等の発表の場作り、

・ 釧路湿原サイエンスフェアの開催

釧路市立中央小学校(以下、中央小)、釧路町立別保小学校(以下、別保小)、標茶町立標茶小学校(以下、標茶小)の5年生児童がとりまとめた研究発表ボードの一部を借用し、以下の施設等において展示を行った。



実施日	実施場所	概要
令和2年 1月24日~2月3日	標茶町開発センター	標茶小の学区内に位置する施設において、標茶小から借用したボードを展示
令和2年 2月4日~2月20日	塘路湖エコミュージアム センター	標茶小から借用したボードを展示
令和2年 2月17日~2月26日	釧路市役所 防災庁舎	中央小の学区内に位置する釧路市役所において、中央小から借用したボードを展示
令和2年 2月21日~2月26日	標茶町博物館	標茶小から借用したボードを展示
令和2年 3月22日~4月12日	釧路市こども遊学館	中央小の学区内に位置する施設において、標茶小および中央小、別保小から借用したボードを展示

・フィールド学習のコーディネイト

標茶小、中央小、別保小において、自然再生事業地や釧路湿原を活用したフィールド学習のコーディネイト、フィールド学習実施時のプログラム進行を行った。

➤ 釧路市立中央小学校における学習支援

学校での教員との意見交換（6月24日、7月9日）

フィールド踏査・利用施設との調整（6月23日、7月8日、8月20日）

フィールド学習の事前案内

実施日時：令和2年8月5日（水）15:50～17:10

実施場所：釧路湿原右岸堤防（鶴居村温根内）、堤防沿いの湿原

対象：5年生担任教諭

主な内容：フィールドおよび実施プログラムの紹介

フィールド学習実施時のプログラム進行

実施日時：令和2年8月21日（金）8:40～11:50

実施場所：温根内ビジターセンター、釧路湿原右岸堤防、堤防沿いの湿原

対象：5年生33名

主な内容：移動車中での車窓風景の解説、施設内展示物の解説、湿原内でのプログラム進行、釧路湿原右岸堤防からの車窓風景の解説



➤ 釧路町立別保小学校における学習支援

学校での教員・地域コーディネーターとの意見交換（6月23日）

フィールド踏査・利用施設との調整（6月24日）

フィールド学習の事前案内

実施日時：令和2年7月29日（水）14:45～17:30

実施場所：細岡展望地および周辺フィールド

対象：5年生担任教諭、地域コーディネーター

主な内容：移動中での車窓風景の解説、フィールドおよび実施プログラムの紹介

フィールド学習実施時のプログラム進行

実施日時：令和2年8月5日（金）8:40～12:00

実施場所：温根内ビジターセンター、釧路湿原右岸堤防、堤防沿いの湿原

対象：5年生33名

主な内容：移動車中での車窓風景の解説、展望地周辺フィールドでのプログラム進行



- 標茶町立標茶小学校における学習支援
 - 学校での教員との意見交換（4月2日、6月23日）
 - フィールド踏査・利用施設との調整（4月14日、6月15日、6月23日、6月25日）
 - フィールドの事前案内（7月3日）（※）
 - フィールド学習実施時のプログラム進行（7月9日）（※）
- ※）2.自然再生の学校教育への活用促進を参照

○授業支援の実施

- ・釧路市立鳥取小学校 フィールド学習
 - 実施日時 : 令和2年2月20日（木）9:10～11:25
令和2年2月21日（金）9:10～11:25
 - 実施場所 : 温根内ビジターセンター周辺フィールド、釧路湿原右岸堤防
 - 対 象 : 3年生63名
(クラス毎に日を分けて実施)
 - 主な内容 : スノーシューや歩くスキーでの冬の湿原散策
(案内とレクチャー)



「ワンダグリンド・プロジェクト 2020」応募状況

○総数:64 団体

「ワンダグリンド・プロジェクト 2020」参加者一覧

団体数	氏名・団体名	取組概要
1	愛国幸恵町内会	釧路湿原や町内会周辺の身近な自然の写真や『ワンダグリンド☆ニュース』を町内会で回覧
2	アトリエ「アリス」	釧路湿原などの自然を含む釧路地域の素晴らしさを描くことによりアピールする
		釧路に自生する植物を使ったアート作品の制作と発表
		釧路川周辺の清掃活動を実施
3	イオン釧路店チアーズクラブ	環境学習
4	イオン釧路昭和店チアーズクラブ	地域と自然環境について学ぶ
5	伊勢 志郎	釧路湿原国立公園内の施設に来園記念の折鶴を提供。その他たんちょう釧路空港や丹頂鶴関連の施設にも提供
6	一般財団法人釧路市民文化振興財団 (釧路市生涯学習センター)	～いきいき女性講座～ 「キラコタン岬とコッタロ湿原展望台から釧路湿原を眺めよう」
		～ふるさと講座～ 湿原ホテル講座 「釧路湿原の夜の隠れた風物詩を探ろう」
		～釧路学教養講座～ 「釧路湿原を訪ねて～キラコタン岬と自然再生地～」
		～まなぼつとわくわく体験隊～ 「森とあそぼう 2015」(達古武で自然再生を考える調査体験)
7	(NPO)美しい村・鶴居村観光協会	タンチョウ、湿原による環境のPR及び「湿原マップ」の販売
8	(株)FMくしろ	放送を通じて、湿原の植物や昆虫、動物、歴史などをわかりやすく楽しく発信する
9	大八木英雄	放置された釣糸の回収や清掃活動、達古武湖でのヒシ刈りを実施。また釧路湿原を歩いていて気付いた事を報告
10	お菓子司 二幸	「湿原まんじゅう」の販売
11	カヌープロ	カヌーを通じ自然の素晴らしさや釧路湿原の大切さを伝える
12	環境コンサルタント株式会社	達古武湖でカヌー清掃&ヒシ料理試食会を実施
13	(NPO)環境把握推進ネットワーク～PEG	釧路湿原に生息する希少動物や外来動植物に関する、学習会や講演会の実施
14	喜多島 麻鈴	コンサートを通じて湿原をPRする
15	(NPO)霧多布湿原ナショナルトラスト	霧多布湿原の保全活動を通して、人との交流を深め湿原ファンを増やす
16	釧路国際ウェットランドセンター	釧路川蛇行復元現場周辺の環境調査を地域の人々と一緒に進行
		湿地・生物多様性に係わる途上国の行政官等を対象とした湿地保全やワイズユースに関する研修を実施(JICAより委託)
		ホームページ等による釧路湿原の情報発信(日本語・英語)
17	釧路子ども劇場	温根内川でのザリガニ釣りによるウチダザリガニの駆除
18	釧路自然解説員	「自然再生解説員」により釧路湿原や自然再生事業の取組を細岡展望台を訪れる観光客を対象にわかりやすく解説する
19	釧路湿原 MTB クラブ	釧路湿原周辺の林道ツーリングの実施

団体数	氏名・団体名	取組概要
20	釧路湿原川レンジャー	釧路湿原や釧路川の観察活動および環境学習を通じて良好な河川環境の維持に務める
21	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	クリーンウォークの実施
		ウチダザリガニ駆除調査
		温根内木道定点解説
22	釧路湿原国立公園連絡協議会	釧路湿原に関する情報を自然情報誌、ガイドマップ、ホームページなどで提供する
		温根内ビジターセンターと塘路湖エコミュージアムセンターで自然ふれあい行事を実施する。また来訪者に自然解説や情報提供を行う
		釧路湿原こどもレンジャー活動を実施
		釧路湿原国立公園クリーンデーを実施
23	釧路湿原自然再生協議会	釧路湿原自然再生協議会や各委員会の情報を発信(会議公開、HP、ニュースレター発行)
		学習会や講演会などの実施
		市民参加の見学会の実施
		パネル展などの実施
		視察・研修などの受け入れ
		自然再生に関わる資料を発刊
24	釧路湿原全国車いす マラソン大会実行委員会	釧路湿原全国車いすマラソン大会を開催
25	釧路湿原マラソン実行委員会	釧路湿原マラソンを通じて湿原の美しさを参加者に伝える
26	釧路市中央図書館	釧路湿原に関する情報提供及び、関連講座や展示を通じた湿原の紹介
27	釧路市立博物館	釧路湿原に関わる調査を行い、企画展示や観察会、講演会などで湿原の魅力を伝える
28	釧路シャケの会	シャケの稚魚の里親募集と放流式の実施
39	釧路短期大学	湿原をとりまく地域食材を使用した学生考案の「咲くサクッキー」を釧路全日空ホテルと連携して販売し湿原自然再生に還元する
30	釧路走ろう会	釧路湿原マラソン大会をはじめ、練習会や個人で湿原の魅力を感じ爽やかな汗を流しながら走る仲間を募る
31	釧路ボタニカルアートの会	釧路湿原の植物を描く
32	(株)釧路マーシュ&リバー	釧路川カヌーツーリングや釧路湿原ネイチャーウォークなどの実施。釧路湿原の様子を画像発信するなど全国そして全世界へ釧路湿原の魅力を伝える
33	(NPO)釧路湿原やちの会	釧路湿原の聖域キラコタン岬入口周辺の外来植物オオアワダチソウの駆除を実施
34	こどもエコクラブくしろ	釧路湿原における特定外来生物の調査・防除活動
35	小荷田 行男	釧路湿原とその周辺域の植物生態・自然史・鳥類生態の調査研究
36	木幡 弥乃莉	『ワンダグリンダ☆ニュース』、ポスターやチラシなどのイラストを描く
37	一般社団法人 釧路観光コンベンション協会	釧路湿原をはじめ釧路市の観光情報を発信
38	沢田建設株式会社	釧路湿原近郊の清掃活動(ごみ拾い)を実施
39	品田 忠	木の枝の作品作りや展示、木工教室を通じ湿原からの水の大切さを伝える
40	上智大学 社会とエコロジー “リバーズ”	釧路湿原を軸に河川環境保全、野生動物の保護活動などの取組を学ぶ

団体数	氏名・団体名	取組概要
41	シルバーシティときわ台ヒルズ	釧路湿原を学ぶ自然文化講座を実施
42	太平洋総合コンサルタント株式会社	標茶高校における体験型の環境教育の実施(野外での水質調査、生物調査を通して身近な環境を楽しみながら学ぶ)
43	タクツパ(ペンネーム)	道東の自然や地名をアイヌ語で紹介
44	竹中 康進	「羽幌みんなでつくる自然空間協議会」によるピオトーブづくりの取組を紹介
45	田中 道人	ドローンで湿原を撮影し、動画で紹介する
46	(NPO)タンチョウ保護研究グループ	タンチョウの保護に関する教育普及活動を実施
47	charcha	釧路湿原の自然再生活動や清掃活動に参加
		HP、SNSで活動を報告・告知する
48	辻野 正	釧路湿原の生き物の生態を紙細工で紹介する。その他作成指導や実演、完成品や作成キットの無料配布や展示を実施
49	(株)鶴居村振興公社 鶴居村どさんこ牧場	北海道和種馬(通称どさんこ)による釧路湿原国立公園を含む地域でのホーストレッキングで多くの方々に地域の自然を楽しんで頂く
50	鶴田 義成	釧路長期滞在中、釧路湿原周辺の清掃活動を実施
		千葉県在住中、釧路湿原自然再生事業の取組を紹介
51	(NPO)トラストサルン釧路	ナショナルトラスト地の環境保全作業にボランティアの方と共に取組、湿原やトラスト地の観察会を行う
52	(株)日専連釧路	「日専連釧路フィッシャーメンズカード」利用額の一部を釧路湿原国立公園連絡協議会を通じて子供達の野外活動で役立つものを寄付する
53	西村 咲輝	釧路湿原でのバードウォッチングを楽しみながら清掃活動を行う
54	西村 孝広	釣りの自警活動の一環として釣り場周辺の清掃活動を行う
		オオハンゴンソウの駆除活動を行う
55	(公財)日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	タンチョウの冬季自然採食地の整備、普及教育、生息環境調査を行う
56	長谷 泰昌	教員等を対象に湿原の魅力を伝える
		理科授業を通して環境教育に取組む
57	北海道阿寒高等学校	「地域巡検」を実施し、釧路湿原の学習を中心にすえ自然の大切さを体験学習する
58	北海道ウチダザリガニ 防除ネットワーク	釧路湿原の貴重な自然環境や保全に携わる魅力的な人々のことを紹介する
59	ミュージックサロン・タジマ	カラオケ発表会を通して湿原のPRや募金活動を行う
60	宮部 碧	釧路湿原についての展示製作
		豊田市のラムサール条約登録湿地での保全活動とその紹介
61	やちラボ	釧路湿原の旬の自然情報を行動計画オフィスに届ける
		釧路湿原の魅力を地元の人々や観光客に伝える
		釧路湿原に生息する「やちぼうず」の魅力をPRする
62	(株)優輪	釧路湿原の清掃活動を実施
63	雷別ドングリ倶楽部	シラルトロ湖上流の立枯れ被害にあった森林で市民参加型の自然再生事業を行う
64	酪農学園大学 環境地球科学研究室	釧路湿原における物質循環についての研究
64 団体・個人		

広報支援としての参加施設一覧

	施設名	広報支援
1	釧路市民活動センターわっと	ワンダグリンダニュースの掲示、ポスター掲示
2	釧路町温水プール	ワンダグリンダニュースの掲示、イベントポスター、チラシ掲示
3	釧路町地産地消センターロ・バザール	イベントポスター、チラシ
4	釧路町総合体育館	ワンダグリンダニュースの掲示、イベントポスター、チラシ
5	達古武オートキャンプ場	ワンダグリンダニュースの掲示、イベントポスター、チラシ
6	細岡ビジターズラウンジ	ワンダグリンダニュースの掲示、イベントポスター、チラシ
7	標茶町博物館	ワンダグリンダニュースの掲示、イベントポスター、チラシ
7 施設		

小委員会事務局が実施する市民参加の取組について

●：主催事業 ○：協力事業

主催	小委員会事務局が主催または支援を行う取組
湿原再生	<p><釧路開発建設部治水課></p> <p>● <u>釧路湿原を再生しよう！未利用地を湿原に再生する取組 幌呂地区湿原再生現地見学会</u></p> <p>日程：令和2年9月13日（日） 場所：幌呂地区湿原再生箇所（鶴居村下幌呂） 内容：事業説明＋現場見学＋自然再生体験（ヨシ移植・外来種防除） 対象：一般市民</p>
	<p><環境省></p> <p>● <u>カヌーdeヒシ刈り in 達古武湖</u></p> <p>日時：令和2年8月30日（日） 場所：釧路町達古武湖 内容：事業説明、カヌーを使って自然再生体験（ヒシ刈り） 対象：一般市民</p> <p>● <u>達古武湖ペカンペ野外教室</u></p> <p>日時：令和2年9月4日（金） 場所：釧路町達古武湖 内容：事業説明、カヌーを使って現場見学、植物観察等 対象：釧路町立遠矢小学校5年生（釧路町と共催で実施）</p>
旧川復元	<p><釧路開発建設部治水課></p> <p>● <u>釧路湿原を再生しよう！直線河道を蛇行河川に戻す取組 旧川復元現地見学会</u></p> <p>日程：令和2年9月4日（金）、5日（土） 場所：茅沼地区旧川復元箇所（標茶町コッタロ原野） ヌマカ地区旧川復元箇所（標茶町オソベツ原野） 内容：事業説明＋現場見学（復元箇所e ボート川下りほかに） 対象：一般市民</p>

●：主催事業 ○：協力事業

<p>主催</p>	<p>小委員会事務局が主催または支援を行う取組</p>
<p>森林再生</p>	<p><林野庁 釧路湿原森林ふれあい推進センター></p> <p>●<u>雷別ドングリ倶楽部</u></p> <p>(雷別国有林の森林再生のためのボランティア活動)</p> <p>日程：令和2年6月24日(水)、10月14日(水)</p> <p>場所：雷別国有林(標茶町雷別)</p> <p>内容：広葉樹の植樹と保護管(ツリーシェルター)の被覆等の広葉樹の森林づくり</p> <hr/> <p><環境省></p> <p>●<u>自然再生を考える調査体験会 2020「沢の生き物調べ」(仮)</u></p> <p>日時：令和3年2月(予定)</p> <p>場所：達古武の森林再生地</p> <p>内容：事業説明+現場見学+冬の沢の生き物観察</p> <p>対象：一般市民</p> <p>○<u>釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検事前予察【実施支援】</u></p> <p>日程：令和2年8月5日(水)</p> <p>場所：達古武地区森林再生事業地</p> <p>内容：フィールドおよび活動案説明</p> <p>対象：釧路湖陵高等学校教諭</p> <p>○<u>釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検事前予察【実施支援】</u></p> <p>日程：令和2年8月19日(水)</p> <p>場所：達古武地区森林再生事業地</p> <p>内容：取組の紹介、トラップ設置</p> <p>対象：釧路湖陵高等学校 理数科1学年代表生徒</p> <p>○<u>釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検【実施支援】</u></p> <p>日程：令和2年8月26日(水)</p> <p>場所：達古武地区森林再生事業地、夢が丘木道および展望台</p> <p>内容：調査体験、取組の紹介、湿原景観の観察</p> <p>対象：釧路湖陵高等学校 理数科1学年生徒</p>
<p>水循環</p>	<p><釧路開発建設部治水課></p> <p>●<u>釧路川流域の水・物質循環の体験</u></p> <p>日程：令和2年10月～12月(開催検討中)</p> <p>場所：幌呂地区(湧水、自然再生)等</p> <p>内容：水や土砂などのメカニズムの現地見学</p> <p>対象：一般市民・協議会委員</p>

●：主催事業 ○：協力事業

主催	小委員会事務局が主催または支援を行う取組	
地域づくり	(今年度の活動内容検討中)	
土砂流入	<p><北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部治水課> ●久著呂川自然再生の見学ツアー 日程：令和2年10月9日(金) 場所：久著呂川流域及び事業実施箇所 内容：事業説明+現場見学 対象：一般市民</p>	
再生普及	<p><環境省> ●市民講座～ラムサール40周年記念 <u>地域の宝は地球の宝！</u> <u>釧路湿原の「すごい！」を体験しよう～</u> 日程：令和2年9月12日(土)《座学》 令和2年9月27日(日)《フィールドワーク》 令和2年10月3日(土)《座学・ふりかえり》 場所：座学 釧路地方合同庁舎 フィールドワーク 温根内周辺フィールド 内容：事前の座学、フィールドでの体感、事後のふりかえりから成る3回連続講座として実施 対象：一般市民</p> <p>●第25回フィールドワークショップ 日時：令和2年10月31日(土) 場所：温根内 内容：フィールドワーク 対象：ワンダグリンド・プロジェクト参加者</p> <p>●体感！釧路湿原《教員研修講座》 日程：令和2年10月～2月(2回の開催を予定) 場所：未定 内容：フィールドワーク、座学 対象：小学校・中学校・高等学校教員、教育大学生等</p> <p>●湿原研究発表ボード企画展示 日時：令和2年1月～3月(5箇所程度) 場所：標茶町内、釧路市内を予定 内容：湿原を題材とした研究発表ボード取組校から借用したボードの学外展示 対象：取組校における児童、一般</p>	<p>ワンダグリンド参加活動による実践予定 ○みんなで調べる復元河川環境・2020夏 日時：令和2年9月5日(土) 場所：釧路川茅沼地区 内容：蛇行復元された水辺環境の調査 対象：一般(環境調査) 主催：釧路国際ウェットランドセンター</p>

●：主催事業 ○：協力事業

主催	小委員会事務局が主催または支援を行う取組
再生普及	<p><環境省></p> <p>○標茶町立標茶小学校 現地予察【実施支援】</p> <p>日程：令和2年7月3日（金） 場所：達古武地区森林再生事業地、夢が丘木道 内容：フィールドおよび活動案説明 対象：標茶小学校教諭</p> <p>○標茶町立標茶小学校【実施支援】</p> <p>日程：令和2年7月9日（木） 場所：達古武地区森林再生事業地、夢が丘木道 内容：取組の紹介、フィールドワーク 対象：標茶小学校5年生児童</p> <p>○釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検事前学習【実施支援】</p> <p>日程：令和2年7月20日（月） 場所：釧路湖陵高等学校 内容：座学 対象：釧路湖陵高等学校 理数科1学年生徒</p> <p>○釧路町立別保小学校 現地予察【実施支援】</p> <p>日程：令和2年7月29日（水） 場所：細岡展望台、周辺フィールド 内容：フィールドおよび活動案説明 対象：別保小学校教諭ほか</p> <p>○釧路町立別保小学校【実施支援】</p> <p>日程：令和2年8月5日（水） 場所：細岡展望台、周辺フィールド 内容：フィールドワーク（湿原景観、湧水の観察ほか） 対象：別保小学校5年生児童</p> <p>○釧路市立中央小学校 現地予察【実施支援】</p> <p>日程：令和2年8月5日（水） 場所：温根内ビジターセンター、周辺フィールド 内容：フィールドおよび活動案説明 対象：中央小学校教諭</p> <p>○釧路市立中央小学校【実施支援】</p> <p>日程：令和2年8月21日（金） 場所：温根内ビジターセンター、周辺フィールド 内容：施設展示観覧、フィールドワーク 対象：中央小学校5年生児童</p>

第4期再生普及行動計画に基づく取組について(案)

第26回釧路湿原自然再生協議会（9月1日）への報告をもって第4期再生普及行動計画が策定されたことから、2024年度までの5年間、同計画に基づく取組を進めていく。

第4基計画の推進にあたり、これまで再生普及行動計画オフィスを中心に行ってきた取組に加え、新たに以下の企画検討を行っていく。

1. 市民講座の企画、実施

市民参加の一層の拡充が期待されることから、一般市民を対象とした講座を企画、実施する。（※R2年度実施済（資料1「釧路湿原ラムサール条約登録40周年記念 市民講座」参照））

本講座を通して、市民が湿原と関わり、学ぶ機会を拡充するとともに、自然再生への市民の関わりを積極的に促していく。

2. 湿原の保全や再生に係る情報発信の拡充

■地域の図書館や博物館における資料の整備について

《現状》

- ・図書館等に収蔵された資料は、館内およびWEB上で広く検索を行うことができるため、情報を求める人々に対して効果的に情報発信することが可能である。
- ・一方で、地域の図書館等には自然再生事業に係る資料は十分に収蔵されていない（例：釧路市中央図書館では過去の一部の資料が収蔵されているのみ、また検索ワードも統一されていない）。
- ・市民への情報発信において、紙媒体の資料へのアクセスを容易にすることも課題の一つと考えられる。

《検討事項》

- ・各事務局において公開可能な紙媒体の資料を再生普及行動計画オフィスに提供し、オフィスより図書館等への提供、収蔵を図る。
- ・本年度は、釧路市中央図書館との調整を開始し、今後、各市町村の主要な図書館での整備を図る。

【整備資料（案）】

- ・全体構想
- ・各事業地実施計画書
- ・再生普及行動計画
- ・各小委員会発行ニュースレター
- ・ワンダグリーンダ報告書

- ・自然再生事業および釧路湿原、流域河川に係るパンフレット、リーフレット等
- ・協議会配布資料（要検討）
- ・各小委員会配布資料（要検討）

■写真データの事務局共有の仕組づくり

《現状》

- ・各事務局において写真を管理しており、事務局間においても共有できる仕組がないため、必要に応じて都度写真提供の依頼等を行っている。
- ・写真資料は、協議会構成員や市民への情報発信、環境教育の素材として重要なものの一つであり、オフィスの取組の中でも多くのニーズがある。

《検討事項》

- ・各事務局が所有する写真データを事務局間で共有する仕組づくりを行う。
- ・使用範囲、手順、クレジットの入れ方等、必要なルールの検討を開始する。
- ・各事務局は共有可能な写真の整理を行い、オフィスにデータ（撮影年、撮影場所、写真の概要説明等含む）を提供する。
- ・本年度は、以下の写真データの整備を試行し、今後検討を行いながら拡充を図る。

【写真データ（案）】

- ・環境変化を把握可能なもの→過去と近年の様子を対比することができる定点写真等
※再生事業の効果を把握できるものも含む
- ・湿原の生態系サービスを感じられるもの→涵養機能ほか
- ・自然再生事業の取組を把握できるもの→事業地写真、モニタリングの写真等々

■各小委員会発行ニュースレターを活用した情報発信について

《現状》

- ・各小委員会で作成しているニュースレターについては、協議会の取組を発信する重要な情報媒体の一つであるが、協議会及び各小委員会での配布に限られている。

《検討事項》

- ・印刷部数の制約を踏まえながらも、ワンダグリンダプロジェクト登録者等、協議会構成員以外で再生事業に関りを持っている主体への配布を検討する。
- ・より効果的な情報発信となるような内容の検討及びターゲットの整理を行う。

【情報発信先（案）】

- ・各事務局主催行事への参加者
- ・ワンダグリンダプロジェクト登録団体
- ・学校支援 WG 構成員
- ・管内の小学校、中学校、高等学校、大学

第4期釧路湿原自然再生普及行動計画

はじめに

釧路湿原が日本で最初にラムサール条約湿地に登録されたのが1980年で、今年に登録から40年目の節目になります。その後、1987年に国立公園に指定され、保全活動のみならず、観光やレクリエーション目的でも多くの人々が釧路湿原を訪れるようになりました。一方で、湿原周辺の土地開発や過去の河川改修の影響によって、湿原植生の変化や流域環境の劣化が問題となり、1999年に「釧路湿原の河川環境保全に関する委員会」、そして2003年に「釧路湿原自然再生協議会」ができました。自然再生協議会も今年で17年目になります。

国土地理院によると、北海道の湿地面積は、大正時代には1771.99 km²で、全国の約84%を占めていました。その後、農地開発と共に大きく面積を減らし、1999年には708.67 km²まで減少しました。それでも、北海道の湿地は全国の約86%を占め、大正時代及び現在も全国第1位の面積を有しています。しかし、この80年くらいの間に1063.32 km² (約 60 %)もの湿地を失ったことは、湿原の生物多様性保全ならびに生態系サービスの維持に甚大な影響を与えてきたと思います。

ラムサール条約登録前のような湿原環境を取り戻すことは、自然再生協議会の大きな目標でした。この目標が達せられたとは思えませんが、少しずつ成果も上がっています。5年前の課題の一つに、湿原の保全・再生活動への地域住民の理解と関心があげられていました。2016年3つの台風が襲った北海道東部では多くの洪水や土砂災害が発生しましたが、釧路川流域は例外でした。2万haの釧路湿原が自然の遊水地として機能し、釧路市街を守ったことが水文モデルでも検証されました。この内容がNHK「守れ“命のインフラ”～注目される釧路湿原の防災力～」というタイトルで放映されると、多くの人々が口々に湿原の重要性がわかった、と私に話しかけてくれました。

私たちが釧路湿原の環境を保全することによって、湿原が私たちを守ってくれる、という理解はとても重要で、再生事業が地域住民の暮らしとつながるきっかけになります。「再生普及小委員会」の行動計画は、こうした人と湿原のつながりを実感することができる意義ある活動であり、少しでも多くの人々がこうした活動に参加し、湿原に関心をもってその楽しさや魅力を見つけてくれることを心から願っています。

釧路湿原自然再生協議会会長

中村 太士

(北海道大学大学院農学研究院教授)

1 背景と経緯

釧路湿原では、2003年11月に自然再生推進法に基づく「釧路湿原自然再生協議会」（以下、「協議会」）が設立され、同法に基づく「釧路湿原自然再生全体構想」（2005年3月策定、2015年3月改訂、以下、「全体構想」）及び地区毎の自然再生事業実施計画（以下、「実施計画」）により具体的な事業を進めてきました。

全体構想では、流域全体の目標として「湿原生態系の質的量的な回復」「湿原生態系を維持する循環の再生」「湿原と持続的に関われる社会づくり」を明記し、自然再生を進めるにあたっての主要な施策のひとつとして「自然再生の普及と環境教育・市民参加の促進」を位置づけ、目標達成に向けて各施策と横断的に関わりながら取り組むこととしています。

協議会では、全体構想を受け、さらに自然再生推進法の趣旨を踏まえて、2005年から釧路湿原の自然再生にかかる環境教育や市民参加を推進するための5年計画である「釧路湿原自然再生普及行動計画」（以下、「行動計画」）を作成し、実施してきました。このたび、全体構想のさらなる推進に向けて第4期となる行動計画を策定しました。

第1期～第3期行動計画をとおして、「釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ」活動が多種多様に展開され、「自然再生に参加する、行動する」場や機会が少しずつ広がり、「地域と関わり、人をつなぐ」活動も動き出してきました。他方、日本各地で持続可能な社会の構築を目指す取組みが進められ、地域の経済・社会・環境をめぐるさまざまな課題の統合的な解決をめざす動きがはじまっています。第4期行動計画では、こうした状況も踏まえ、「地域の多様な人々が連携・参画し、地域の将来をともに考える」という全体構想の原則に基づき、流域の地域と湿原の保全や再生が相互に貢献し加速していけるよう、活動をさらに広げ、深めていきます。

表 1 第 4 期行動計画策定までの経緯

1999年9月 ～2001年3月	「釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会」設置。「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」をとりまとめ、市民参加及び環境教育の推進を明示。
2002年9月 ～2003年6月	「釧路湿原の自然再生に係る市民参加・環境教育等の推進方策調査懇談会」設置。「市民参加・環境教育の推進に関する10の提言」をとりまとめ
2003年11月	「釧路湿原自然再生協議会」設立、「再生普及小委員会」設置。
2004年7月	同小委員会に「再生普及行動計画ワーキンググループ」設置。
2005年3月	「釧路湿原自然再生全体構想」策定。
2005年6月	上記「10の提言」の具体化に向けた5カ年計画として「釧路湿原自然再生普及行動計画」を作成。
2007年5月	再生普及小委員会に「環境教育ワーキンググループ」設置。
2010年1月	「第2期釧路湿原自然再生普及行動計画」策定。
2015年2月	「再生普及行動計画ワーキンググループ」および「環境教育ワーキンググループ」解散。
2015年3月	「釧路湿原自然再生全体構想」改訂。 「第3期釧路湿原自然再生普及行動計画」策定。
2015年7月	「再生普及推進のため連携チーム」および「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」設置。
2020年9月	「第4期釧路湿原自然再生普及行動計画」策定。

2 行動計画とは

2-1 目的

この行動計画は、釧路湿原の価値が釧路川流域に浸透し、自然再生[※]が地域づくりの一環として取り組まれる状況を目指し、環境教育や市民参加の一層の普及、拡大に向けた当面の目標と方策を示すものです。

協議会の構成員に加え、地域のさまざまな立場の人々が、釧路湿原や自然再生に関わりを持ち、学びや参加の場を創り出し、釧路湿原のワイズ・ユース（賢明な利用）に向けて行動する人を増やして行くこと、そうした取組みを広げて行くことを目的とします。

本行動計画は、自然再生推進法に基づく実施計画ではありませんが、環境教育や市民参加のもとで釧路湿原の自然再生を進めて行くための協議会全体の指針として、実施計画に準じる重要な役割を担います。

2-2 計画期間と推進体制

本行動計画は、全体構想の各施策の点検・見直し等にあわせて概ね5年ごとに評価し、見直すこととしています。

本行動計画は、協議会に設置された全ての小委員会と横断的に連携しながら、再生普及小委員会が推進主体となって進めます。釧路湿原の自然再生の推進に向けて「できる者」が「できること」から取り組むことを原則に、地域のさまざまな立場の人々と連携しながら取組みを進めていきます。また、課題解決のために個別の推進体制を必要とする場合には、ワーキンググループ等を設置して取り組みます。

本行動計画の事務局は環境省釧路自然環境事務所におき、日常的には環境省釧路湿原野生生物保護センターを拠点に、通称「再生普及行動計画オフィス」（以下、「オフィス」）として活動します。

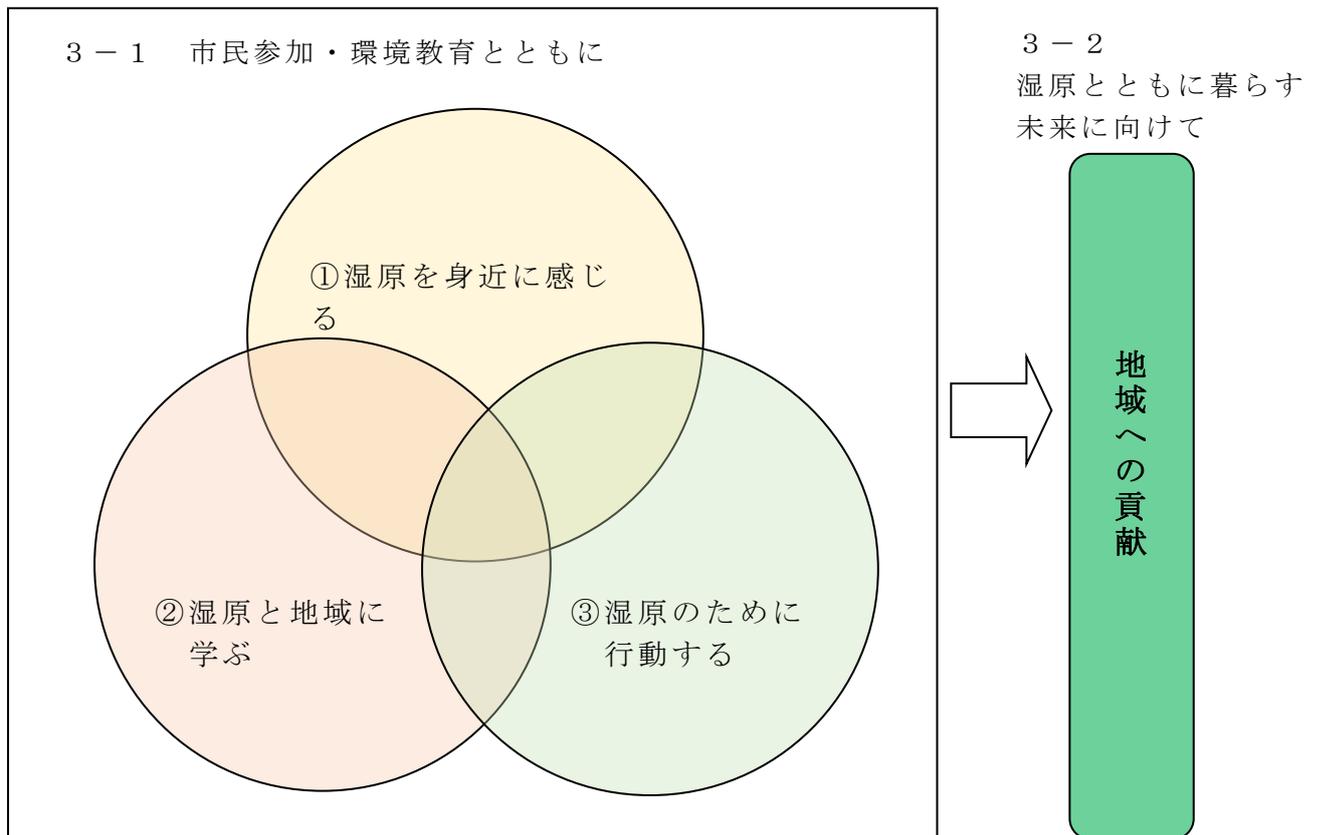
※ 全体構想では、「自然再生」を広くとらえ、自然の保全・回復・復元・修復・維持管理・創出などを含むものと定義しています。この行動計画でも、保全（今残されている良好な状態を維持すること）等を含めた意味で用います。

3 第4期行動計画について

第4期行動計画では、自然再生をとおして地域に貢献していくために、釧路湿原と人々のつながりをさらに広げ、湿原や流域の環境を活用した環境教育や、自然再生への地域・市民の参加が地域に根付いていくことをめざします。

第4期行動計画の対象期間は、2020年度～2024年度とします。

本行動計画では、これまで協議会とつながりがなかった様々な取組みが共有され、様々な立場の人が釧路湿原とつながりを持ち、取組みに参加することを期待します。また、学校教育における釧路湿原や自然再生を題材とした学習の支援の輪が広がり、学校へ定着し普及が進むこと、学校教育および社会教育において、釧路湿原や釧路川流域の環境、自然再生から学ぶ取組みが新たに生まれることを期待します。さらに、協議会内外の人材交流が活発に行われ、釧路湿原のために行動する取組み、地域に貢献する取組みが新たに生まれることを期待します。



3-1 市民参加・環境教育とともに

①湿原を身近に感じる ～ 人々が湿原とつながる ～

流域には、湿原を体験し楽しむさまざまな活動があります。協議会は、そうした活動を応援するとともに、より多くの人々が湿原の魅力を知り、興味をもち、そこから新たな学びや参加・行動が生まれていくよう、情報発信や機会づくりを続けます。また、これまで湿原にあまり関わりを持っていない人々との、新たなつながりや活動、協力が生まれていくことを目指します。

(1) 湿原にふれる機会をひろげる

オフィスや協議会構成員は、より多くの人に湿原の楽しさや魅力、湿原の価値を知ってもらうために、釧路湿原に関わる多様な活動を流域に暮らす人々や子どもたち、来訪者に情報を発信し、さまざまな形で湿原とつながる機会を提供していきます。

(2) さまざまな分野の取組みとつながる

オフィスや協議会構成員は、流域で行われている社会・経済・文化・教育分野等の取組みと湿原の保全や再生とのつながりを働きかけ、新たな連携や取組みを増やしていきます。

(3) より多くの人に湿原の情報をとどける

オフィスや協議会構成員は、日ごろ湿原との関わりを意識していない人々に対しても、それぞれの関心分野に応じた情報発信、対話、企画を行います。

<期待される成果>

- 協議会構成員やワンダグリンド・プロジェクト※の活動をとおして、釧路湿原とつながる情報発信が継続的になされる。
- ワンダグリンド・プロジェクトの活動に、新たな広がりや発展が見られる。
- 新たな分野から協議会との連携・協力が得られる。

※ 4 ワンダグリンド・プロジェクト (P9) 参照

② 湿原と地域に学ぶ ～ 学校や地域での学びの幅を広げる ～

流域では、学校や地域で湿原を学ぶ機会が少しずつ広がってきています。協議会は、そうした学びをさらに広げ、深めていけるよう、湿原を活用した学校教育・社会教育を引き続き支援し、自然再生事業の現場を活用した学びの機会も提供していきます。

また、学校、専門家、地域のさまざまな立場の人々のつながりをつくり、新たな切り口の学びと協力を引き出し、環境教育や地域学習の幅を広げていきます。

(1) 教員・指導者が学ぶ機会をひろげる

オフィスや学校支援ワーキンググループは、学校教員や地域で社会教育を担う人々が、湿原の価値や地域の社会・経済・文化とのつながりをさまざまな切り口と視野で学び、取組みの幅を広げていけるような機会をつくります。教員研修や各種フィールド行事等の機会に加え、湿原を地域との関わりとともに学ぶモデル的な授業・プログラムづくりも支援していきます。

(2) 学びに関わる人をつなぐ

オフィスや学校支援ワーキンググループは、学校、NPO、専門家、地域の産業、協議会事務局など、これまで必ずしもつながりのない様々な立場の人々をつなぎ、協働による学びの場づくりを進めます。そして、さまざまな立場の人々がつながることで生み出される学びの価値を高め、そうした連携を進めます。

(3) 湿原の多面的な価値の学びにむけて

オフィスや小委員会は、湿原が地域にもたらすさまざまな機能や価値を学校や地域での学びの題材として活用し、湿原の保全や再生との関わりや意義を伝えていきます。学習に関わる人々がそれらを体験し、学びを深めていく機会も設けていきます。

<期待される成果>

- 教員や社会教育を担う人々に湿原の価値が認識される。
- 湿原に関する学習の機会が増加する。
- 学校、NPO、専門家、地域産業などの連携が進み、新たな学びの機会が形成される。
- 湿原が地域にもたらすさまざまな機能や価値が、今よりも活用され、湿原に関する理解が深まる。

③ 湿原のために行動する ～ 保全や再生に関わる人・機会を増やす ～

流域では、協議会による自然再生事業や協議会構成員による活動のみならず、湿原の保全や再生につながるさまざまな活動が行われています。協議会は、それらの活動がより効果的に進められるよう、連携の働きかけや流域への情報発信等をしていきます。また、より多くの人々が参加できる機会・場づくりを行い、湿原の保全や再生との関わり方を知らせ、行動する人を増やします。

(1) 新たな活動・参加機会づくりをみちびく

再生普及小委員会は各小委員会との連携により、湿原の保全や再生に向けた協議会内外のさまざまな活動の芽を育て、継続するための体制づくりを実施していきます。湿原の保全や再生を直接行う活動にくわえ、教育や地域づくりの取組みとの連携も幅広く展開していきます。

(2) 参加機会・方法を地域に幅広くとどける

オフィスは、小委員会や協議会構成員が実施する現地見学会や多様なボランティア登録制度などを多くの人々に発信していきます。また、それらの参加機会と他の事業との交流や連携を提案、企画し、双方の活動の活性化をめざします。

(3) 地域の人々が湿原を見まもる

小委員会は、自然再生事業地の見学会や報告会等を継続するとともに、地域の人々が地元の湿原の状況や再生による変化を、長期的に見守っていくことを支援します。

(4) 協議会への参加をひろげる

小委員会は、つながりのある地域の産業や専門家、地域振興に関わる人々に、協議会への参画や小委員会の活動との連携を働きかけていきます。また、小委員会をより開かれた場として広報し、さまざまな人々との交流機会としての活用を図ります。

<期待される成果>

- 湿原の保全や再生、地域づくりの取組みに、学生・若者、長期滞在者、外国人等の参加者層が得られる。
- 湿原の保全や再生、地域づくりにつながる活動が生まれる。
- 湿原の保全や再生、それらと関わる地域づくりに取り組む人々が協議会に参画する。

3-2 湿原とともに暮らす未来にむけて ～ 地域への貢献 ～

協議会は、流域の人々が将来にわたって湿原の恵みとともに暮らすワイズ・ユースの実現に向けて、湿原の保全や再生の必要性が地元で共有されることを目指します。今期は、3-1 ①～③の取組みとも相互に関わりながら、以下を進めていきます。

(1) 一次産業とのつながりをひろげる

一次産業と湿原の保全や再生のつながりに関する地域や関係者の理解を深めるとともに、新たな連携の方策を探っていきます。

(2) 観光分野との連携をすすめる

観光客や長期滞在者誘致等の地域の動きも踏まえ、地域づくり小委員会と再生普及小委員会の連携等により、湿原の保全や再生と観光振興の両立に向けた関係者への働きかけや、情報の発信、相互の交流・つながりづくり等を進めます。

(3) 湿原のワイズ・ユースに向けたルールの普及

地域づくり小委員会は、湿原やその周辺地域でのカヌー、釣り、散策・撮影等に関し、ワイズ・ユースに向けた各種ガイドラインを策定していきます。再生普及小委員会は地域づくり小委員会と連携し、策定プロセスの支援や、ルールの普及を進めます。

<期待される成果>

- 一次産業関係者の協議会への参加や協働事業が進む。
- 湿原の保全や再生と観光・地域づくりを両立する取組みがはじまる。
- 湿原を訪れる来訪者に向けた、適正な利用のルールが普及する。

4 ワンダグリンダ・プロジェクト～釧路湿原の応援団

協議会は、たくさんの人々の参加を得て行動計画を進めるために、ワンダグリンダ・プロジェクトを実施します。ワンダグリンダ・プロジェクトは、湿原につながるのがある様々な取組みからなる、地域と自然再生事業をつなぐ「釧路湿原の応援団」です。

釧路湿原の保全や再生、ワイズ・ユースに貢献する取組みであれば、市民、企業、学校、行政、専門家など、どのような立場からでも参加することができます。



協議会は、ワンダグリンダ・プロジェクトに参加する取組みを随時募集し、とりまとめて情報発信します。

オフィスでは、参加登録された活動から情報をご提供いただき、メールニュースやイベントなどで地域に広報していくとともに、毎年度活動状況をつとりまとめ流域内外に情報発信していきます。

また、参加登録された取組み以外にも、湿原の保全や再生、湿原を活かした地域づくりにつながるさまざまな活動を紹介していきます。

※ ワンダグリンダ・プロジェクトの参加の受付、登録の手続きは、オフィスで行います。

5 評価のための指標

第4期行動計画期間の取組みは、以下の指標等を用いて評価します。

- 協議会、小委員会の参加状況
 - ・構成員数
 - ・新規登録者数
 - ・実施内容
 - ・協議会と小委員会の連携事例

- ワンダグリンド・プロジェクトの状況
 - ・登録者数、属性
 - ・登録活動の内容
 - ・登録継続率
 - ・新規登録数、属性、取組み内容

- 自然再生事業地の活用状況
 - ・協議会事務局による取組み：件数、参加者数、参加者属性、参加回数、実施内容
 - ・学校教育による活用：件数、参加者数、実施内容
 - ・そのほかの活用事例

- 教育分野における釧路湿原の活用状況
 - ・流域市町村の学校における釧路湿原を活用した学習の実施状況（アンケート調査）
 - ・学校支援の状況：対応人数、学校数、対応件数
 - ・学校支援実施校の所在地
 - ・学校を対象としたモデル授業の実施状況（件数、人数、継続率、内容）
 - ・釧路湿原を題材とした学習発表会の取組み数
 - ・釧路湿原を題材とした研究論文等の発信数
 - ・釧路湿原を題材とした研修等の実施状況（件数、人数、継続率、内容）
 - ・連携した取組みの事例

- 協議会事務局が運営するボランティア制度の状況
 - ・登録者数
 - ・継続者数
 - ・新規登録者数
 - ・登録者所在
 - ・取組み内容

- 情報発信の状況
 - ・全国紙における報道掲載数
 - ・地方紙における報道掲載数
 - ・メールニュース配信状況、配信内容
 - ・WEBサイトアクセス数、掲載内容
 - ・紙媒体、展示等での情報発信の状況

○ 釧路湿原における観光分野における釧路湿原の活用状況

- ・ 観光客入込数
- ・ 国立公園利用者数
- ・ ビジターセンター等施設利用者数
- ・ 釧路湿原を訪問するツアー等の状況
- ・ 湿原の賢明な利用に向けたルールの認知状況（関係分野へのヒアリング調査等）

<参考> 釧路湿原自然再生協議会構成図（2020年9月1日現在）

